

広報

うわじまちくしょうぼう

第83号

宇和島地区消防本部
宇和島地区防火協会
<http://www.119.uwajima.nanpu.or.jp/>

秋の火災予防運動

11月9日(金)～11月15日(木)

「忘れてない? サイフにスマホに火の確認」

【住宅防火いのちを守る7つのポイント】

- 3つの習慣
 - 1 寝たばこは、絶対やめる。
 - 2 ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
 - 3 ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- 4つの対策
 - 1 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
 - 2 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。
 - 3 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
 - 4 お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



平成30年上半期の火災・救急速報



火災概況

平成30年上半期(1月1日～6月30日)に宇和島地区管内で発生した火災は19件で、昨年同時期の25件と比べて6件の減少となっています。月平均出火件数としては3.17件となり、およそ10日に1件の割合で火災が発生したことになります。

火災種別では、建物火災7件、林野火災1件、車両火災1件、船舶火災1件、その他火災9件となっています。出火原因では、**たき火が8件**と最も多く、たばこ2件などとなっています。

管内では、昨年同時期と比べ火災件数が減少していますが、**たき火が原因となる火災**が多く発生しています。火の取扱いには十分注意しましょう!

救急概況

平成30年上半期(1月1日～6月30日)の救急出場件数は2,384件で、昨年同時期の2,457件に比べ73件の減少となっており、搬送人員も2,219人と前年の2,273人に比べて54人減少しています。また、1日あたりの平均出場件数は13.1件で、1日あたりの平均搬送人員は12.2人となっています。

事故種別では、最も多いのが急病で1,620件、次いで一般負傷344件、転院搬送217件、交通事故157件などとなっています。

なお、**救急車で搬送された人の約38%は軽症**です。この中には、本来、救急車が必要でなかった人や、救急車をタクシー代わりに利用する方も含まれている可能性があります。救急車の適正な利用にみなさんご理解、ご協力をお願いします。

少年消防クラブ夏季研修

去る8月1日、鶴島小学校少年消防クラブ、住吉小学校少年消防クラブ、みどり寮少年消防クラブ合同で夏季研修を実施しました。毎年、1泊2日の日程で開催している夏季研修ですが、7月に発生し、西日本各地に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨を考慮して、日程を急遽1日のみに変更して実施しました。参加したクラブ員23名は、消防職員からAEDの取扱いを交えた心肺蘇生法などを学び、昼食にはカレーを作りました。時折、小雨が降る中の研修でしたが、笑顔や笑い声が絶えない良い研修になったと思います。



消防署からのお知らせです!



当消防本部管内において、**ご家庭で長期間使用している電気製品から出火し、火災に至る事例が相次いで発生**しました。

製造から長期間経過した扇風機やあんま器などは、製品内部の部品が劣化することなどによって、異常発熱やショートをおこして発火することがあります。

製造から長期間経過した電気製品は、使用を中止していただくか使用しない時は電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いておくことを心掛けましょう。また、使用中に焦げくさい臭いや異音がする、異常な振動がある、動作が不安定になる、部分的に熱くなるなどの症状が認められる場合には、直ちに使用を中止して電源プラグをコンセントから抜き、購入店または製造メーカーの窓口などに相談しましょう。

平成30年7月豪雨

平成30年6月28日以降の台風7号や梅雨前線の影響により、西日本を中心に全国各地の広い範囲で発生した豪雨は、各地に甚大な被害をもたらしました。この豪雨災害によって全国で221名の方が犠牲となり、現在も9名の方が行方不明となっています。

愛媛県でも7月5日から大雨が降り始め、7月7日には県内各地で大規模な土砂災害や河川の氾濫などが相次いで発生、さらに7月8日には数十年に一度の降雨量となる大雨が予想されるとして「大雨特別警報」が発表されるなど、南予地方を中心に被害が拡大し、県内全体での犠牲者は29名（災害直接死27名、災害関連死2名）にのぼりました。

この豪雨によって当消防本部管内でも13名（災害直接死12名、災害関連死1名）の方が犠牲となりました。中でも宇和島市吉田町は、町内各所で土砂災害が発生、道路の冠水等もあり町全体が一時孤立状態となりました。土砂災害現場では多くの方が被害に遭われ、地元消防団をはじめ、県内外から派遣された消防、自衛隊及び警察による懸命の救出活動が行われましたが12名（災害直接死11名、災害関連死1名）の尊い命が失われるなど甚大な被害となりました。

【吉田町南君（立目）地区】



【吉田町法華津（与村井）地区】



【吉田町沖村（御殿内）地区】



【吉田町白浦（先新浜）地区】

